

れんらじおと劇団れんで意思決定支援！

社会福祉法人 訪問の家地域活動ホーム連

〒241-0835 神奈川県横浜市旭区柏町 59-2

助成事業の概要

「利用者の方々の意思表出の場」「意思決定支援に携わる職員研修の場」をポイントに今年度はそれを施設内だけでなく地域や関係機関に発信する事を目標に取り組む。

アサダワタル氏との「れんらじお」を年間 4 回、倉品淳子氏との「劇団れん」を 5 回開催。れんらじおでは施設利用者さんが主役になれる架空のラジオ番組作りを行ない、2025 年 3 月の回では施設近隣の相鉄線南万騎が原駅前の貸スペース「みなまきラボ」にて例年行なっている施設の作品展と連動して地域住民向けに開催し、施設利用者さんの強みを発信し繋げる機会を作った。

劇団れんでは年間 5 回のワークショップを経て、2025 年 1 月に開催された区内の啓発イベント「あっぱれフェスタ」にて舞台パフォーマンスをする機会を設けた。

ワークショップの中で利用者さんから生まれた表現や言葉を題材に劇を作り、「銀河鉄道の連 ジョバンニとカンパネルラはどこへ行く？」というタイトルの演目を利用者さん職員が一緒に演じた。

事業の成果

【れんらじお】

利用者の方々の意思表出の場と言うポイントに着目し、年間 4 回の開催の中で特に成果として捉えているのが「副音声チャンネル」という仕掛けです。通常、施設内の会場の中心にラジオブース

を構え、出演利用者はその中心にいる形を取りますが、この仕掛けでは副音声チャンネルと称し会場内のメインのブースから 2 ～ 3 メートル離れた位置に専用ブースを構え、その位置からメインのブースで行なわれているやり取りに加わってもらおうと言う参加方法をとってみる事にしました。

副音声チャンネルを希望した利用者さんは、このワークショップを始めて以来、毎回参加をされており、やりたい事はたくさんありますが、1 対 1 のやり取りや自身に注目が集まりすぎてしまうと緊張してしまい、途端に全く話が出来なくなってしまう、と言う特徴を持った利用者さんです。

ですが、副音声チャンネルの立ち位置で参加した所、メインのブースの話の流れもよく理解把握ができており、自身が言いたい事を思いついたタイミングで自由に発言する様子が多く見られました。そして表情や声の大きさからも緊張感なく発言が出来ていると感じる事ができました。

この事から「利用者さんが意思表明をしやすい環境への配慮」について考えるキッカケとなりました。福祉サービス内で行なわれる個別支援会議や利用者さんとの面談では、部屋に机が並んでおり明らかにかしこまった場で支援者に囲まれ、緊張感を持ってしまい本来思っている事が言えているのか、表明できているのか、もっと工夫できることはないかと考える事があります。

今回の副音声チャンネルの仕掛けを通じて、必ずしも会議や面談の場で本人が物理的に中心（支援

者に囲まれている）にいらなくてもよいのではない
か、より意思の表明しやすい参加方法（支援者を
俯瞰的に見る事の出来る座席配置など）を考えら
れるのではないかという意思表示の支援に関する
気づきがありました。

【劇団れん】

5 回のワークショップの中で、利用者さんの考え
ている事や意見した事、その時に表現した事を題
材に劇を作りました。その結果、「宮沢賢治」や「学
校」「先生」というテーマを持った創作演劇が完
成しました。

予め台本や配役がありそれに沿って演じ、演技指
導をするという形ではなく、利用者さん本人が表
現した事やその場のやり取りをそのまま劇のシー
ンにしたりする形で劇を作り上げたため、自分の
発言した内容である為、それぞれがセリフをよく
覚えており、決して「やらされてる」のではなく「主
体となって演じている」劇にすることが出来まし
た。

回数を重ねる事により、より主体的に表現活動に
取り組む事が出来るという実感を得る事ができま
した。

成果の広報・公表

1 月に旭公会堂にて劇団れんのパフォーマンスを
する機会、3 月にれんらじおワークショップを近
隣の駅前で地域住民向けに発信する機会を作りま
した。

1 月の劇のパフォーマンスでは来場者の方から
「皆さん（障害のある方）がやらされていること
なく自分で演じようと思って演じている様子が伝
わってきた」という感想も頂きました。

3 月のれんらじおワークショップでは利用者さん
の得意な事（即興での似顔絵作成やパソコンでの

イラスト作成）をその場で来場者の目の前で行な
う事が出来て、障害のある方と地域住民が繋がる
機会となりました。

今後の展開

継続して助成を受ける事ができ、年々表現の多様
さや利用者さん自身の自主性が高まってきている
ワークショップが行なっていると感じています。
次年度も継続して施設内に留まらない形で発信す
る機会を作り、障害のある方の表現やその生活ぶ
りが地域住民に届くように取り組み、障害のある
方への理解啓発を行ないたいと考えています。

またこのような取り組みが障害のある方の意思表
出、決定に必要な事だと考えている為、近隣の福
祉関係者、事業所に同じような取り組みをやって
もらいたいと考えています。

その為に、取り組んできた事やその成果をまとめ、
発信が出来るようにしたいと考えています。（記
録映像の共有や記録冊子の作成など）